

飯館村を訪問して



遊び場所・体を動かす場所

玄関を一步出れば、遊び場所には事欠かないだろうと思われる自然がとても美しい村です。しかし、子どもの声はなく、季節が関係するのかもしれませんが、鳥の鳴き声も聞こえてきません。バスを降りて、すぐに感じた印象は静かすぎるという事でした。



村の方々はこの数日は雪が解けるほど暖かいとおっしゃったのですが、寒い・・・

その中、おそらく測定機材を背負っていらっしゃるのだろうと推測しますが、雪に覆われた広い田んぼやビニールハウスの中を休む事無く、歩いていらっしゃる男性がいました。



菅野家にお邪魔して、伺ったお話

両日ともわずかな時間でしたが、村の方々にお話を伺う事ができました。震災・事故以前は同居していたご家族が現在は離れて生活をされている事、道路・川・山・住居と管轄官庁が異なる為、つぎはぎだらけで総合的な除染対策・作業が進まない状況に対する不安、胸のつまる様なお話がいくつも強く印象に残りました。

住民の方々が中心となって進めている放射線調査や、除染方法の改善点などのお話も伺う事ができ、また、実際に土壌サンプルを採取する現場でのお手伝いもわずかながらさせて頂いて、これまで何気なく言われるままにおこなっていたサンプル作成等の作業が、住民の方々の復興や帰村に関わってくる重要なものなのだと、遅ればせながら認識したところです。この笑顔が大いなる希望です。





二日目、帰郷前にお邪魔した土壌サンプル採取の様子を写したものです。

二日目も寒い・・・サンプル採取の現場はかなりの強風・・・どれくらいかというと・・・この左下の写真の旗の様子からご想像頂きたい。



田んぼは表面近くが凍ってしまっていて、土を抜き取る為の道具を差しこむのに、挑戦しましたが私にはできませんでした。

土日にいくつかのグループに分かれて村の各所をまわり、この様なデータ収集のための作業をされているとの事。

とにかく、強い風もあいまって寒い・・・

その中で泣き言をひとつも出さない方々です。

村の皆さんの前向きな姿勢と気持ち、強さを感じた貴重な時間です。



一見ただけでは、原発事故の被害を受けたとは見えません。

五感でとらえる事ができないものへの怖さがありますが、村の家の前に植えてあった松、川、夕方の山と空、川の傍に生えていた植物には次の春に向けて新しい芽が出始めていました。

震災・事故前と変わらないものがあるのですね。



村の方々の生活が完全に元の様に戻るとは限りませんが、先の見えない不安や、国策と住民の皆さんが望む事との食い違いがもたらす憤りや不信感、問題は限りがありません。



今後、帰村がかない、生活が始まる時がきたとして、生活を維持する為の衣食住が確実に保証されなければなりません。

あるいは、避難先で新しい生活が定着すれば村に戻らないという選択肢も当然でできます。過疎化問題に発展する可能性もあります。

一言帰村許可といっても、田畑で作物を育てて収穫したとして、消費者が安心して購入できなければ村の方々は生計が成り立ちません。

また村にすむためには、家のメンテナンスにも相当な費用と時間がかかるでしょう。

施政がどの様になるか、その時にどの様な支援ができるか、私も及ばずながら今後の課題として考えていきたいと思います。